

<NHKテレビの時代考証>

「大江戸もののけ物語」の不思議な寺子屋

2020年7月11日 中城正堯 Mail:masataka_nakajo@earth.ocn.ne.jp

昨日、NHK テレビの番組予告を見て驚きました。BSPで17日から始まる連続時代劇「大江戸もののけ物語」の導入場面が、寺子屋です。ところが大河ドラマなど、従来のNHK時代劇同様に、相変わらず寺子屋の机の配置が、明治に始まる学校と同様に、教壇に向かって整然と並べられているのです。机は脚の短い天神机ですが、並べ方が間違っています。

寺子屋の机に関しては、すでに1990年平凡社刊『「勉強」時代の幕あけ』の「寺子屋では机をどう並べたか」で、金沢大江森一郎教授が江戸時代の絵図や文献の詳細な調査研究から、子どもが師匠と正対する事例は全くないことを明らかにしています。筆者たちが編纂した『浮世絵に見る江戸の子どもたち』（小学館 2000年刊）でも、多くの浮世絵で寺子屋を示してありますが、子どもたちは互いに向き合って座っているのです。

NHKがなぜ寺子屋をこのように描き続けたか不明ですが、その影響は大きく、民放テレビのみならず、地方の郷土資料館などでも寺子屋の再現場面が学校方式になっています。むろん山形県教育史料館の寺子屋展示のように、本物の天神机を正しく並べた事例もあります。この機会に、日本が世界に誇る寺子屋教育の実態を、正しく理解いただくために、あえて問題提起を致します。妖怪ものとはいえ時代劇であり、背景はきちんと時代考証をしたリアリティが欲しいのです。NHKにも、連絡済みです。番組をぜひご覧下さい。

なお、寺子屋では基本的に個人別・進度別の自学自習で、一斉授業はありませんでした。ヨーロッパでは貴族の初等教育は家庭教師で、庶民は19世紀になり、工場労働者や兵卒養成のために、宣教師の新大陸での聖書教育方式からベル・ランカスターメソッドの一斉授業が学校に取り入れられ、教え込みスタイルが確立しました。

<浮世絵の寺子屋> 「風流てらこ吉書はじめけいこの図」 歌川豊国 文化2年頃（公文教育研究会蔵）

